

【応募用紙】

提出いただいた応募書類（規約・会則等、役員名簿、収支書類を除く）は、活動内容紹介のため、ホームページ上に公開します。**応募用紙・補足資料に個人情報を記載しないようご注意ください。**

1 応募者概要

団体名	(ふりがな：よこはましりつとみおかちゅうがっこう かかくぶ) 横浜市立富岡中学校 科学部		
代表者の役職・氏名	(ふりがな：ちくい かずゆき) (役職) 顧問 (氏名) 築井 一千	活動にかかわる児童・生徒・学生数	(令和3年4月現在) 21名
ホームページアドレス	https://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/jhs/tomioka/	活動開始年月	昭和 平成 令和2年 4月
環境に関する主な活動内容 (審査対象となる環境活動・取組を簡条書きで記入。行を適宜追加して下さい)	環境に関する主な活動内容 (例) □□の美化・清掃活動、○○の生き物調査、植樹活動、△△の環境教育、食品ロス削減、地産地消 など		※(もし該当がある場合は、SDGsの目標番号を記入してください)
	・大岡川についての環境調査		11
	・野島海岸におけるマイクロプラスチック調査		11、14
	・川と海の水環境と下水道の関係について調査・啓発		4、11、14
	・学校ビオトープの整備と地域の水環境について		11、14、15
活動範囲 (複数選択可)	1 <input checked="" type="checkbox"/> 学校内 <input checked="" type="checkbox"/> 2 学校外 (大岡川水域・野島海岸等)		
活動分野 (複数選択可)	<input checked="" type="checkbox"/> 1 川・海・水 2 緑・樹林 3 農業 <input type="checkbox"/> 4 3R <input checked="" type="checkbox"/> 5 環境教育・学習 <input checked="" type="checkbox"/> 6 生物多様性 <input type="checkbox"/> 7 地球温暖化対策 8 その他 ()		
活動の目的やねらい	<p>○身近な自然環境にある課題や、現代社会が抱える課題について、部員の一人ひとりが自分ごととして捉え、市民として解決できる方法を見つける。主体的に行動を起こし、学校や地域に呼びかけることで環境を保全していく。</p> <p>○自分たちの経済活動が、環境を変化させているということに気づき、その中で問題を改善し、次の社会に引き継ぐことを主体的に見つける。</p>		
過去に受けた表彰	(例) 横浜□□賞 (平成○年度) ・こどもエコフォーラム環境絵日記展 (平成30年度)		

および受賞年度	<ul style="list-style-type: none"> ・ゴミを追いかけることでくらしと街と水のつながりがみえたで賞（令和元年度）：スイスイ下水道研究所 ・未来の研究者が誕生したで賞（令和3年度）：スイスイ下水道研究所（下水道展）
---------	--

2 最近3年間の主な活動

※「1 応募者概要」の「環境に関する主な活動内容」について、最近3年間の主な活動内容を記入してください。

	活動・取組・イベント等の名称 発行した印刷物等の名称	参加人数、発行部数等	詳細内容
令和元年度	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な環境についての調査 ・下水道処理施設見学 ・地域に水環境についてのアンケートの実施 ・下水道展'19 横浜 スイス下水道研究所「未来研究発表会」での発表（8月） ・学校ビオトープの改修計画策定 ・海洋大学でプラスチックの調査実験検討（赤外吸収スペクトル） 	部員 29人	<p>前年度以前に、近隣の川の環境悪化に着目し、水質調査を始めた。川の水質調査を定期的に行う中で、プラスチックごみの存在に気づき、調査研究を始めた。水環境を調査する中で、下水道の役割、働きに着目し、施設見学を行い、下水道環境についての学びを始めた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●大岡川の水質調査（本校近くの大岡川上流での調査）【資料1(1)】 <ul style="list-style-type: none"> ①COD ②pH ●マイクロプラスチックの現状調査【資料1(2)】 <ul style="list-style-type: none"> ①野島海岸での調査 ②大岡川下流域での調査 ●施設見学・室内分析【資料1(3)】 <ul style="list-style-type: none"> ①下水道処理施設見学 ②本校実験室にてゴミの比重実験・劣化試験 ●海ゴミ(プラスチックごみ)問題と下水道、生活排水について考察する。【資料1(4)①】 <ul style="list-style-type: none"> ①学区内の生徒の保護者に向けてのアンケートの作成・実施 ②活動を発表することで、問題提起する。 ●「未来研究発表会」ステージにて発表【資料1(4)②】【資料4】 <ul style="list-style-type: none"> 発表テーマ「川から海へ ビニール袋はどこまでも～あなたも落としているカモ～」 ●学内の池を、生物多様性を保全するためのビオトープ改修計画 <ul style="list-style-type: none"> ①今までの活動を通じて池をどのように改修するか検討 ●海洋大学でプラスチックの調査実験検討（新型コロナウイルス感染症の影響により実験は実施できず）
令和2	<ul style="list-style-type: none"> ・下水道処理施設見学 	部員 21人	<ul style="list-style-type: none"> ●下水処理場見学【資料2(1)】 <ul style="list-style-type: none"> 下水処理場(水再生センター)を見学し、水道の仕組みについて理解した。コロナ禍で、プラスチックごみが増えたのではないかと仮定のもと、ごみ焼却施設でも質問を行う。

<p>年度</p>	<p>・身近な環境についての調査及び校内アンケート</p> <p>・市民科学発表会でのオンライン発表（12月）</p> <p>・校内ビオトープの完成</p>		<p>1) 海ごみ調査【資料2(2)】</p> <p>①野島海岸に漂着したマイクロプラスチックの調査 【調査方法】現地でサンプリングは行うが、室内でのごみ分析まで行うことはできなかった。</p> <p>②海ごみ問題や下水道についてのアンケート調査 【調査方法】学校で配布・回収 保護者に配布をし、アンケートを実施した。</p> <p>2) 河川の水質調査【資料2(3)】 【調査方法】パックテストによる水質調査（pH, COD）, 水質計による水温観測 調査は週1回を行う予定が校外での活動が、できない状況が続き、予定よりも少ない状況で調査を行い続けた。</p> <p>●活動内容の発表会【資料2(4)】 下水道展(オンライン)、文化祭が中止になったので、校内オンライン発表会（市民科学発表会）となった。 発表テーマ「身近な環境について」 （発表項目）富岡中学校と自然、大岡川、マイクロプラスチック、新型コロナ感染拡大中の世間変化、ビオトープ</p> <p>●校内ビオトープの再構築</p> <p>①コロナで臨時休校になる以前より、校内の池を近隣の環境にあったものに戻していく計画を立てていた。</p> <p>②「横浜市環境創造局 学校・ビオトープのすすめ」により生徒主体でビオトープにするために工事を行った。</p>
<p>令和3年度</p>	<p>・身近な環境についての調査</p> <p>・スイスイ下水道研究所「未来研究発表会」での発表</p> <p>・市民科学発表会での発表</p> <p>・校内ビオトープ改修</p>	<p>部員 21人</p>	<p>1) 大岡川の水質調査（本校近くの磯子区氷取沢町の大岡川上流での調査）</p> <p>①COD</p> <p>②pH</p> <p>2) マイクロプラスチックの現状調査（12月に調査予定）</p> <p>①野島海岸での調査</p> <p>②大岡川下流域での調査</p> <p>●活動内容の発表会（未来研究発表会及び市民科学発表会）【資料3】 発表テーマ「未来へ続け自然環境～あなたの捨てたゴミの行方～」 （発表項目）富岡中学校と自然、身近な川（大岡川）の水質調査、富岡中学校のビオトープの過去と未来、下水道と私たち、身近なゴミと下水道</p> <p>●校内の池を、生物多様性を保全するためのビオトープに改修</p> <p>①近隣の水辺より、生物を譲り受ける</p> <p>②ビオトープの生物を定期観察</p> <p>・訪れるトンボの羽にナンバーを入れ、近隣の自然との、関係を調査</p>

※ 現在活動休止中の場合でも、今後継続して取り組む見込みがある場合は応募の対象とします。

3 地域との関わり

	活動・取組等の名称	詳細内容
学内の生徒等 や教員、保護 者との関わり	アンケート実施	・科学部の活動の中で、地域の方の水環境についての考えをいただきたく、保護者の方を中心にアンケートを行った。
自治会・町 内会との関 わり	アンケートの実施 のお願い	・保護者だけでなく、市民としての取り組みを学区内の自治体・町内会に呼びかけ、アンケートを実施することで科学部の取り組みを広報（コロナで部活動が停止したために、現在保留となっている）
学外団体と の関わり	・一般社団法人生 物多様性アカデミ ー ・特定非営利活動 法人よこはま里山 研究所 nora	・川や海の環境について、継続的に調査を行う中で、調査方法などについて、ご指導いただき、共同調査を行っていただいている。（生物多様性アカデミー） ・ビオトープの改修のご指導をいただき、現在も定期的にご指導いただいている。
企業等との 関わり	・国際航業 ・（株）石井造園	・川や海の環境について、継続的に調査を行う中で、調査方法などについて、ご指導いただいている。 ・ビオトープの改修工事をしていただいた。
行政との関 わり	国土交通省 環境創造局	（活動内容が行政の補助事業である場合は、補助金交付の部署名と補助金の名称を記載してください） ・国土交通省・水管理・下水道・環境教育：循環のみち下水道環境教育助成金 助成金を利用させていただき、川の水質の調査の試薬や、海の調査器具の購入。また市民科学発表会の際の交通費・発表のための資材購入。 ・ビオトープの改修や学習についてのご支援をいただく。 ・下水道処理施設などの見学
その他、環境 以外の分野と の関わり		

4 団体の発足経緯、活動を始めたきっかけ

※立ち上げた主体、どのようにして活動に携わる人が増えてきたのか等も合わせ、具体的に記入してください。

科学部の活動の中で、身の回りの自然を観察する中で、環境の変化や報道などで取り上げられている、問題について、自分時自分ごととして考える機会を得ることがあった。(川から泡が出ている。そして、川の様子が時によって違う。さらに、大雨の後やゴミの量など、観察をする中で変化に気づいていった。)

また、他の中学校科学部の活動についても、生徒たちが興味を持つようになり、交流する機会を得た。

その中で、舞岡中学校が継続的に行っている舞岡川の水質調査やハグロトンボについての学習を自分たちの地域の中で取り組めることはないかと、部員が主体にテーマを見つけ出した。

金沢区の海と山がある環境の中で、自分たちが中学生という一市民レベルで考え観察する中で、地域の人たちに向けて、持続可能な社会を構築するためには何が必要かを部活動で取り組むこととした。

- ・定期的に観察すること(大岡川の観察・自然海岸(野島)の観察)
 - ・身近な水環境を既存の山や海の環境に馴染むように人工的でない自然に戻すこと(池ビオトープ)
 - ・荒れていた花壇の整備
 - ・活動の中で、自分たちが考え、考察したことについて、自分ごととして確認していくこと
 - ・これから私たちが持続可能な社会を作るためには、自分ごととして確認したことを発表していく
- これらの活動を通じて、各行政や団体・企業の方にご支援いただき、生徒たちが主体となり、活動を行うことが可能となった。

5 今までの活動

活動の目標・ねらいに対する成果

生活の中で、見過ごしていた環境について、調査していく中で、河川流域だけでなく、海、校内の水環境に関心を持つことができた。(川から海へ。さらに学校内の池についても金沢区の中の自然としてどのように保全していくかを主体的に考え、計画をすることができた)

さらに活動を継続することで、世界中で問題になっているマイクロプラスチックごみ問題を、自分ごととしてとらえることができるようになった。この反応を学校内外に発表することで、市民と環境を守る活動は自らの市民生活を守り、後輩に活動を引き継ぐことで、豊かな自然環境が守られていくことに気づくことができた。また、科学部の活動を全校生徒に文化祭で発表することで、部活動の活動内容も全校・地域に広く啓発を行うことができた。

生物多様性に関する取組 (生物多様性特別賞の選考の参考とします)

図鑑上の自然ではなく、生徒たちが今まで自分の足で見えてきた身の回りの自然を持続可能な環境として、残していくことを目指し、部活動を行っています。川や海の調査だけでなく、学内の池の再構築も生物多様性保全をするためのビオトープとして改修するため、生徒たちが主体で設計・計画・整備するなど、金沢区本来の自然環境保全に寄与する活動を行っています。

6 今後の活動方針

※次年度以降の目標や、活動継続のためにどう引き継いでいくのかも含めて具体的に記入してください。

※現在活動休止中の場合でも、今後の活動の見込みや方針について御記入ください。

- ・次年度以降も、できる限り、身近な自然観察を継続し、その中で1年生たちに今までの活動を継続していけるようにその意義、目的を継承していく。
- ・さらに地域に向けて、今自分たちが住んでいるこの地域の自然の豊かさを伝え、その自然を持続していけるような取り組みを展開していく。
- ・アンケート活動などを通じ、金沢区の海と山の豊かな自然について、一市民としての中学生の意見を広げていく。

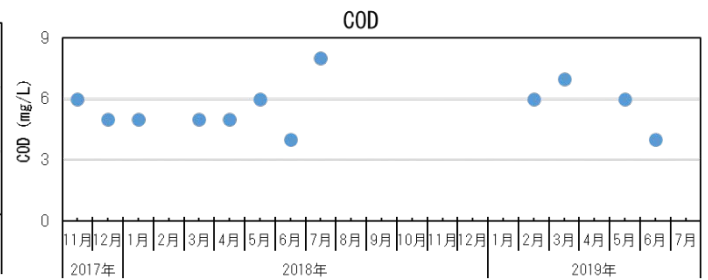
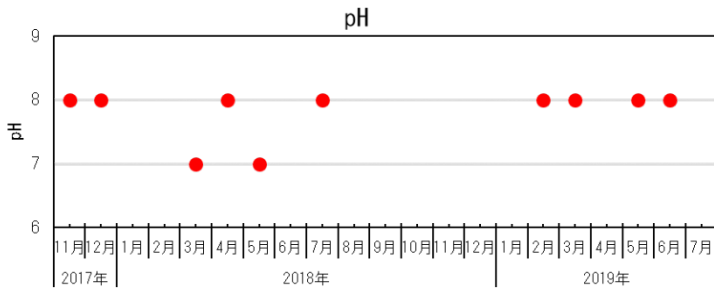
7 審査にあたり、最も注目してもらいたい取組、PRポイント

【例】

- 最も注目してもらい・評価してもらいたい取組
- 一番成果があがっていると思う取組
- 他の団体と異なる自分たちの強み・独自性
- 取組の過程で、どのような努力・苦労があったか など

- ・生徒が自分ごととして、主体的に川の観察や海の観察を継続して行っている。
- ・その中で、今まで気づけなかった、身の回りの自然について、どのようにすれば持続可能になるかを考えている。(継続する中で、観察当初は見られなかった、カワセミ・ハグロトンボも今年は何度も確認している)
- ・生徒たちが、池を改修するにあたって、取り戻したい生物は何かと、自分たちで考えていったこと。(夏前より、池にトンボが戻ってきている。羽にナンバーをつけることで、何度も同じトンボが戻っていることも確認できている。)
- ・取り組みをはじめの前に、金沢区の周辺の山を歩くことで、生徒たちの気づきを尊重した。その中で、山を源流とする大岡川の流れについて興味を持ち、その川の始まりから海に続くことも、自分たちの足を使って、体感した年もあった。その気づきと体感が、後輩に引き継がれ、現在の活動となった。
- ・発表をする先輩を見る中で、下級生たちが学ぶことが多くあり、その下級生が、少しずつではあるが、確実に自分ごととしての身の回りの環境を意識していることが最大の成果である。

(1) 大岡川の水質調査



大岡川で採水し、パックテストを持ち用いて継続的に水質調査を実施した。

考察

- ・pHは一度も7を下回っていないため、性質は弱アルカリ性であるとわかる。
- ・CODは2018年の6月から7月にかけて数値が跳ね上がっている。7月に上陸した台風7号の影響を受けて、豪雨が発生したためと思われる。
- ・水質は悪化するのは一瞬でも急激に改善されるとは限らない。

今後

調査が出来ておらず、記録が残っていない月がある、“継続的な調査”のためにも毎月調査を実施することが重要である。

(2) マイクロプラスチック調査：活動内容

①野島海岸で、グループに分かれて、50cm四方の枠の中にあるマイクロプラスチックを採取する。(6月22日)



②大岡川に沿って川に落ちてるプラスチックゴミを採取する。(8月31日)



(3) 施設見学・室内分析：活動内容

①下水道処理施設(金沢水再生センター)を見学し、下水道の仕組みを学ぶ。下水道に流れ着く、プラスチックごみの現状を確認する。(8月1日)



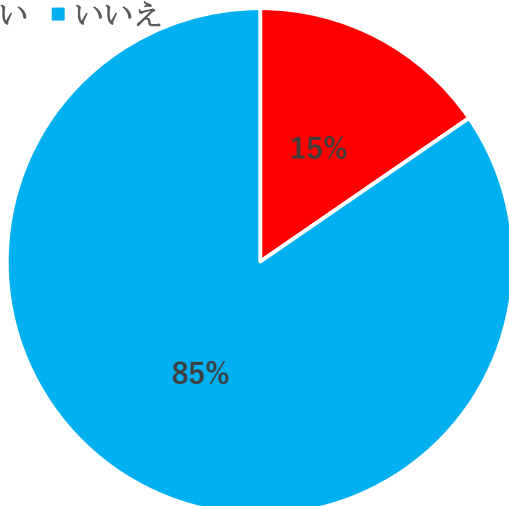
②本校実験室にて野島海岸と大岡川で採取したプラスチックごみおよび、下水処理場から提供頂いた試料を用いて比重試験、劣化試験を実施する。

(4) 海ゴミ（プラスチックゴミ）問題と下水道、生活排水について考察する。

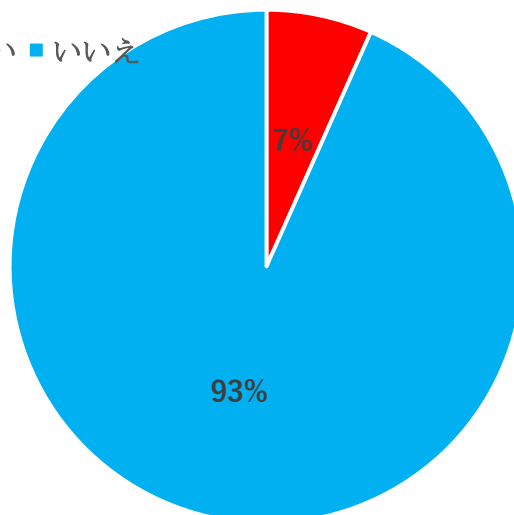
①学区内の生徒の保護者に向けてのアンケートの作成・実施

Q.海岸や川の清掃活動に参加したことがありますか？ Q.あなたのお住いの場所が、合流式下水道か分流式下水道か知っていますか？

■ はい ■ いいえ



■ はい ■ いいえ



(1) 下水道処理施設見学 10月30日

- 横浜市環境創造局 下水道施設部 南下水道センター 金沢水再生センター
(金沢区幸浦1丁目17)
- 横浜市資源循環局 金沢工場(金沢区幸浦2丁目7)

テーマ: コロナ禍のプラスチックごみについて、町のプラスチックごみは本当に増えているのか。流れ着いてくる下水道のごみや家庭から出されるプラスチックゴミについての現状を調査する。

コロナ禍でプラスチックゴミは増えているのか?

- 現段階では、変化が見られない。
- 下水処理場からの処理水は見た目にも、美しい。



今年度初めての施設見学の中で、1年生は金沢区内にある施設についての現状について学ぶことができた。また、施設内の実験室にも3年生は興味を持ち、将来の進路としての下水道処理施設も考えることができた。



②野島海岸ごみ調査 12月5日

マイクロプラスチック調査

今年度初の海の調査。
1年生を中心に、50cm四方の中のプラスチックゴミの回収。
その他、海ゴミの現状を知る。



アンケート

今年度は準備する時間をとることができず、個人面談で来校した保護者を中心にアンケートを行った。

(3) 河川の水質調査

休校期間、学校再開後も川の調査をなかなか行うことができず、今年度は調査をまとめることが不可能であった。次年度に継続し、定期的に PH/COD 水温等調査を継続していく。
調査をする中で、身近な野鳥や水生生物にも関心が生まれ、継続し、観察していく。



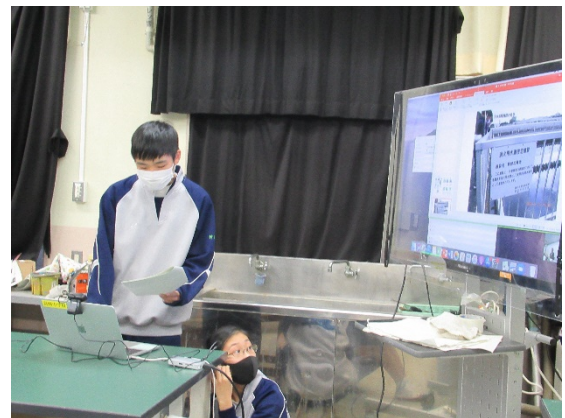
(4) R2年度市民科学発表会に zoom で参加 12月24日

文化祭の発表に使った、power point の資料を
基に、活動報告を行う。

コロナ禍でなかなか活動を行うことができな
かった部活動の中で、
身近な環境問題を考えることのできた
一年であった。

また、オンライン活用で活動報告をする中で、
自分たちの活動内容を多くの人に知らせることが
できた。

次年度に向けて、活動を継続していく。



未来へ続け自然環境

～あなたの捨てたゴミの行方～

富岡中学校科学部

はじめに

私たち科学部は、国土交通省が推進する「下水道を核とした市民科学」に参加しています。例えばマイクロプラスチックの調査をしたり、学校の近くに流れる大岡川の流域のゴミ拾いや水質調査をしたり、放置されていた鑑賞池を改修し、生物たちを呼び込もうとビオトープを作ってきました。コロナ禍で活動は制限されてしまいますが、活動を続け、自分たちにできることは何かを考えていこうと思います。

身近な川(大岡川)の水質調査



- ・ハグロトンボやカワセミも確認。
- ・大雨（台風・ゲリラ豪雨）の後のCODの値は大きく変化している。

・2020年3月～5月の休校後、部活動もできず、水質調査も5ヶ月間実施できなかった。その後定期的に川の様子とともに調査を行っている。



富岡中のビオトープの過去と現在

私たちは、長年にわたり放置されていた鑑賞池を動植物が安定して生息できるビオトープとして、周辺の生物を呼び込み、ビオトープネットワークを形成することにした。

＜整備前＞

生息動物：ザリガニ、メダカ等

生息植物：スイレン等

東屋の屋根：破損して危険

＜整備後＞

生息動物：ヤゴ、チョウ、アメンボ、ハグロトンボ等

生息植物：水辺の水草、スイレン等

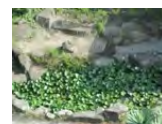
東屋の屋根：壊れた屋根をなおし、砂をまいてクローバー等を植えた



- ・整備前の東屋の破損



- ・整備後、屋根を緑化、在来の植物が屋根を覆いつつある。



- ・整備前の水面、スイレンが全体を覆っている。



- ・整備後、スイレンは一部になり、池の底が見え、ヤゴも確認。

下水道と私たち

＜現在の活動＞

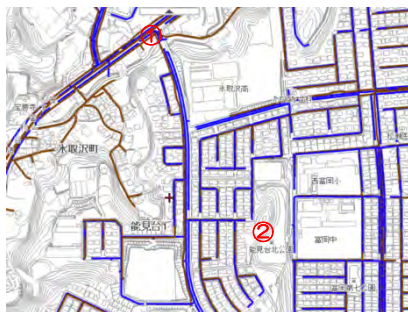
- ・継続して大岡川の調査を行っている。川にあわ？と多くのゴミが見つかった
- ・近くの公園（中学校に隣接する能見台北公園）のゴミ調査を行った。



下水道図と公園の関係

・横浜市行政地図情報システムから下水道図を取り寄せて、地域のゴミと川のゴミについて気づいたこと。

公園やグラウンドにゴミを捨てると、雨水管を経由して、海に流れていくのではないかな。



- ・②能見台北公園と①の大岡川への吐口の位置関係に注目。

＜これからの活動＞

- ・ゴミと下水道の関係を地域の人たちがどの程度理解しているかアンケートを取る予定（保護者だけでなく、地域の町内会に依頼をする）
- ・このアンケートを集計し、どうするか検討・地域に提案していく

身近なゴミと下水道

＜身近なゴミ調べを始めた動機＞

- ・先輩たちがマイクロプラスチックの調査を始めた
- 野島海岸での調査（横浜で唯一残る自然海岸）多くのゴミが見つかった。



- ・地域でのゴミ調査を行う。分流式地域にもゴミがあることから、ゴミの流出源になっていると考えられる。



・アンケートの実施

①コロナ禍前（2019 保護者生徒対象）

海ごみ問題を知っている保護者の割合 99%
下水道の仕組みは詳しくは知られていない。



②コロナ禍（2020年保護者対象）

コロナ禍で不織布マスクなどのゴミは、多くなったと感じている。海ごみ問題は、よく知られている。下水道の仕組みは、詳しくは知られていない。

下水道については
あまり知られていないことが判明

[ホーム](#) > 下水道展'19横浜 スイス下水道研究所「みらい研究発表会」のご案内

下水道展'19横浜 スイス下水道研究所「みらい研究発表会」のご案内

公開日：2019年

8月6日に開幕する下水道展'19横浜において、GKPは「スイス下水道研究所」（旧パブリックゾーン）に企画協します。

同研究所は様々な体験を通して下水道を楽しく学んでいただく内容となっており、ステージでは毎日、「みらい発表会」を行います。

みらい研究発表会には下記の14団体が参加し、それぞれ水に関する研究や調査、活動等について発表していた予定です。

是非、スイス下水道研究所のステージ前に足をお運びください。

【みらい研究発表会 団体と発表テーマ】

- 8/6(火) 13:30~14:30
 - ①NPO法人雨水市民の会「山と災害の役立つZeroトイレの提唱」
 - ②舞岡高校下水道マニア チームA「未定」
 - ③日枝小学校 五年「かがやけブルーリバー ハッピープロジェクト 大岡川でつながり合おう大作戦」
- 8/7(水) 13:30~14:30
 - ①全国川ごみネットワーク「身近なことから川ごみ・海ごみを減らそう」
 - ②舞岡高校下水道マニア チームB「未定」
 - ③科学部 ハートフル桶西水族館「高校水族館・ハートフル桶西水族館の管理・運営」
 - ④横浜市立舞岡中学校科学部「舞岡川のハグロトンボ調査と市民科学による今後の展開」
 - ⑤日枝小学校 4年2組「目指そうプラスチックゼロ！生き物とまちを守りたい！ここにいてよかった！大作戦」
- 8/8(木) 11:00~12:00
 - ①武蔵野市「水の学校」サポーター「排水・その先 ～空想の世界へ～」
 - ②アート下水道チーム「アート下水道」
 - ③岡山理科大学附属高等学校科学部「百間川の汚染源特定に向けた取り組み」
 - ④横浜市立富岡中学校 科学部「川から海へ ビニール袋はどこまでも ～あなたも落とされているカモ～」
- 8/9(金) 13:00~14:00
 - ①NPO法人21世紀水倶楽部「世界の列車トイレ」
 - ②東京農業大学造園科学科 ランドスケープデザイン研究室「世田谷区におけるグリーンインフラの事例とこらのビジョン」

※スイス下水道研究所のステージで行います。

| [プライバシーポリシー](#) | [お問い合わせ](#) |



copyright©2012 下水道広報プラットフォーム all rights reserved.

[トップページ](#)[GKPを知る](#)[GKPの活動を知る
\(プロジェクト\)](#)[GKPの会員紹介](#)[情報共有](#)[ホーム](#) > [R3 年度 市民科学発表会を開催しました【開催報告（動画）】](#)

R3 年度 市民科学発表会を開催しました【開催報告（動画）】

公開日：2021年9月

令和3年8月19、20日、市民科学の更なる普及発展につなげることを目的として、国交省主催の「市民科学学会」をオンラインで開催いたしました。103名の方々に事前登録いただき、19日は約60名、20日は約70名のご視聴いただきました。今年度は、下水道展の大阪会場で開催された「GKP みらい研究発表会」とのコラボ企画で開催し、市民科学発表会にプレゼン参加した2団体はGKP みらい研究発表会でもご発表いただきました。

2日間にわたる発表会では、科学部で活動する中高生、市民団体、企業、自治体といった幅広い団体から、様々な取り組みについてご発表いただきました。科学部で活動する中高生からは、海ごみの問題、川の生き物、水質に関する調査結果やこれらをどのように改善していくかといった展望について、企業の方からは海外での市民科学の事例について、市民団体の方からはアプリを使ってマンホール蓋の情報を収集する取り組み、湖沼の豊かな水質の確保に向け水高度処理水の浄化を市民が取り組むことについて、自治体の方からは下水汚泥由来の堆肥を利用したクワガタ飼育取り組み、市民科学を下水道ビジョンに掲載し積極的に進めていることについて、多様な視点から幅広いテーマでご発表いただきました。さらにそれぞれの発表に対して、関係する活動団体や自治体、また、GKP チーム市民科学のメンバーを含めた会場全体で意見交換を行いました。

今回も前年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、オンラインでの開催となりました。今回は、サテライト会場として横浜市、岡山市に発表会場を設置することで、スムーズに進行することができたほか、ライト会場からは発表後に大きな拍手がおくられました。オンラインで開催することで、対面開催では参加することが難しい遠方の方々にも多く参加いただくことができました。

この発表会をきっかけに、より多くの方に下水道の市民科学について知っていただき、市民科学の活動が全国各地に広がることを期待しております。

当日の様子を動画でご覧いただけます。

開会挨拶 動画再生 <https://youtu.be/L0XPcvvVTH0>

・鶴岡市「コンポストを利用した食用きのこ栽培及びクワガタ飼育」

(発表) 動画再生 <https://youtu.be/irNA6an7jmM>

(質疑応答) 動画再生 <https://youtu.be/qFI6e2vWzHU>

・豊田市「市民連携の取り組み」

(発表) 動画再生 <https://youtu.be/0yZNh4lY6aQ>

(質疑応答) 動画再生 <https://youtu.be/BNAwELRjbuI>

・ヴェオリア・ジェネッツ株式会社「市民と連携しエコロジカル・トランスフォーメーション（環境社会の大転換）の挑戦」

(発表) 動画再生 <https://youtu.be/bBALQcACVqY>

(質疑応答) 動画再生 <https://youtu.be/0e4H5wu4dUY>

・Whole Earth Foundation「市民発インフラ台帳構築アプリ 鉄とコンクリートの守り人」

(発表) 動画再生 https://youtu.be/vR8Ehs_HBjk

(質疑応答) 動画再生 https://youtu.be/Fiwcke2ANqk_5

1日目 ファシリテーター総括 動画再生 <https://youtu.be/598qjPAQBz8>

・諏訪湖クラブ「諏訪湖と“クリーンレイク諏訪”協働効果を生んだ街づくり 市民活動の次の試み 市民科学的技術の地域地域連携」

(発表) 動画再生 https://youtu.be/AyOXG1TUX_E

(質疑応答) 動画再生 <https://youtu.be/CK2S9oO3on8>

・横浜市立富岡中学校科学部「未来へ続け自然環境～あなたの捨てたゴミの行方～」

(発表) 動画再生 <https://youtu.be/Q0fFuTaL-SY>

(質疑応答) 動画再生 <https://youtu.be/fF-yCuP8-d8>

・横浜市立舞岡中学校科学部「ハグロトンボと舞岡川の水質」

(発表) 動画再生 <https://youtu.be/Ao98MAGynV8>

(質疑応答) 動画再生 <https://youtu.be/0OV3Yld6Uq0>